

平成23年第7回まちづくりトーク

会 議 録

おひざにだっこのまちづくりトーク

『家庭ごみ・生ごみを楽しく減らそう』 & 『生ごみ処理機の実験』

2012年（平成24年）1月31日（火）

10:00～12:00

市民交流センター2階会議室

【司会（福本課長）】 こんにちは。こんにちは。ちっちゃいお子ちゃま、元気かな。ものすごく元気な声が返ってきました。寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。本日のテーマなんですけども、本日の第7回、またテーマがこちらに出ています。『家庭ごみ・生ごみを楽しく減らそう』&『生ごみ処理機の実験』。おひざにだっこのまちづくりトークということで開催したいと思います。本日は市民の皆さんとともに作り上げるまちづくりトーク、おひさま紙芝居や、逗子市育児サークル連絡協議会、逗子ゼロ・ウェイストの会、葉っぱのひろばの皆さん、本当にありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

では、初めに市長よりあいさつを

【平井市長】 皆さんおはようございます。ちょっとまだ人が集まっていませんけれども、今回のトークは趣向を凝らして、いろいろな団体の人たちに協力していただいて、こんなすてきな企画になりました。ぜひ、2時間ですけれども、いろいろなこととお話ししながらごみの減量化のことを考えていきたいなと思っています。よろしく願いいたします。

【司会（福本課長）】 はい、ありがとうございます。では、早速始めたいと思います。本日のトークは出席者のバトンリレーによってですね、進行をしていきたいと思います。第1走者、どちらでしょうか。（「はい。」の声あり）はい。はい、よろしく願いいたします。

では、いいですか、位置について、ようい、スタート。

【資源循環課 平元】 はい、始めたいと思います。（拍手）ありがとうございます。ちょっと今日こんなふうになりましたが、いつもはいい声なんで、またお会いできることを楽しみにしています。ちょっと意味わかんなかったですね。

今日なんですけれども、初めに生ごみどうなっちゃうのかなということで、逗子で大人気の生ごみ処理機を2つ御紹介できればなと思っています。一つがこのバクテリア de キューロで、もう一つがこの電動の生ごみ処理機です。ちなみにこのキューロを使ったことあるとか、見たことある方いらっしゃいますか。あ、結構いますね。こちらは、電動処理機は。あ、少ないですね。わかりました。じゃあ、初めにちょっとこのキューロから簡単に説明していきたいと思います。これなんですけれども、この四角い枠にただ単に土が入っているだけ、いわゆる昔の人が庭に生ごみ埋めて消しちゃっていたのと全く同じ原理でやっています。

使い方を説明したいと思うんですけれども、実はこのキューロ、2週間前からですね、せつせと生ごみを仕込んでいます。そのちょっと様子をですね、見ていただければと思うんですけれども、今日のためにですね、実際処理するとどうなるのかなと見てもらいたくて、電動のほうは2

時間ぐらいで処理できるんですけど、キエーロのほうは土なんで2週間ぐらいかかるんですね。なので、そのためにちょっと仕込んできました。入れたもの、この3つです。ちょっとすごい健康によさそうなものばかりなんですけど、オレンジ、バナナ、あとリンゴの皮の3つです。実はですね、市役所の裏手の、市役所の裏のスリーエフと神社の、市場とかある、あの裏の道ですね。ちょっとごめんなさい、説明が悪くて。ここが市役所の裏口玄関、ここのところに2週間置いていました。キエーロの、今こうなっていますが、中こんな感じ。今これ白い線は、2週間前、1週間前、昨日というので分けるためにやっています。こうやって本当に、この四角い枠にちょっと断熱の発泡スチロール、温かいための発泡スチロールが入って、あと中、土が入っているだけです。これをですね、まず掘ります。結構掘ります。このぐらい。掘る時も大きいスコップ使ったほうがいいですね。掘って、これ水、これ水筒なんですけど、水入れます。砕きます。また砕きます。砕き終わったものですね。最後横から乾いた土をかぶせてあげる。これで終わりです。たったこれだけであとはもうほうっておくだけで生ごみが分解されていきまして、2週間たってどうなんだろうという、大体こんな感じですよ。見えますかね。これが…見えますか。あまり興味ないか。こんな感じになります。オレンジがやっぱり皮が厚いから結構残るんですね。でも、リンゴとかってもうぺらぺら。これさっき僕が土ほじくってやったんですけど、相当頑張らないとこれ見えないぐらい。ちょっと2週間前って思い出していただきたいんです、雪降りましたよね。だからちょっと寒いから若干分解が遅くなっています。でも、これぐらいできちゃう。皆さん今これ、昨日生ごみ入れたやつも入っているんですけど、においてしますか。あまり多分しないと思うんですよ。ちょっと僕が鼻詰まっているので余計しないというのあるんですけど、多分あまりしないと思います。すごくにおいもしないし、あと掘って砕いて入れるだけ。あとはもうそのまま放置しておけばできちゃうという。なので、これは結構人気が出てきています。

2つ目なんですけれども、結構前から出ているやつで電動の生ごみ処理機です。これですね、開いて、これ炊飯器みたいになっているんです。入れて、閉じて、コンセント入れて、この入れるというボタンを押すだけ、これだけでできちゃいます。実は昨日ですね、僕ちょっと入れておいたのがあるんですけど、これ何かわかりますか。これ。大根の皮です。これ大根の皮が、おととい鍋やったんですけど、大根の皮入れといて、2時間やるだけでこんなになっちゃいます。今日、よりこれをですね、リアルに感じていただくために、実は平井市長が生ごみ持ってきました。生ごみ入れて、ちょっと実際にやってみてですね、2時間後どうなっているのかなと見てもらおうと思うので、ちょっとやりますね。若干においするので我慢してください。

【平井市長】 ちなみに今日持ってきたのは27日から4日間分の我が家の。(笑) はい。かみさんには内緒で持ってきました。(笑) 結構多いですね。

【資源循環課 平元】 生活の具合がうかがえる。これで中入れました、閉じます、あとボタンを押すだけ。音、聞こえますか。ほとんど多分しないと思うんです。これが中でのくるくる回しながら、あとさっき見せた釜みたいので温めて乾燥させちゃうだけなんです。なので、これをちょっと今日のまちづくりトーク終わった時にまたお見せするので楽しみにしててください。

じゃあ、僕のところは以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)

じゃあ、続いて紙芝居の方、誰かな。はい。

【おひさま紙芝居担当市民】 おはようございます。ちょっと待ってくださいね、ここでちょっと準備をします。

さあ、これから紙芝居が始まるよ。じゃあ、バトンを受けました。おはようございます。おひさま紙芝居の潮村です。(拍手) よろしくお願ひします。しっかりバトンを受けましたので、皆さん、じゃあ、まずはお手を拝借。手出してください。そして、行くよ。さあ、これからお話を始めるからね。じゃあ、一緒に合わせて手拍子いきましょう。では、いきます。よいしょ。(皆で手拍子) ようし、できるかな。よいしょ、よいしょ。あ、上手だね。だんだん速くなってくるよ。上手だね、最後にいくよ。(手拍子終わり)

これからお話を始めます。さあ、お話が始まりますよ。よいしょ、じゃじゃーん。おひさま紙芝居やさんです。よいしょ。バトンをちょっとこっちに置きましょうね。さあ、皆は今日、お外、ここまで何で来たかな。ぽかぽかぽかぽかぽか、お日様見えた。ちょっとお外暖かかったね。お日様に「こんにちは」って皆言えたかな、ねえ。こんにちは。ぷくぷくぷくぷくぷくぷく、あら、雲さん、雲さんもお外にいたかな。ちょっと帰りにお母さんと歩いて帰る時にちょっと見上げてよ。ぷくぷくぷくぷく、雲さん。あれあれあれ、ちょっと何か出てきてる。何。何。によろによろによろ、によろによろによろ。こんにちは、これから紙芝居が始まるよ。さあ、お話を始めるよ。

紙芝居のお話はこれから3つの扉が出てきます。全部絵が見えたら拍手をして教えてください。あ、皆、絵が見えたのねと思ってお話を始めるよ。では行きます。よいしょ。まだちょっと見えないね。よいしょ。あら、まだでもちょっと見えないね。じゃあ、全部絵が見えたら拍手して教えてね。まだ見えないよ、絵が見えないよと思う人はお席をかわっていいよ。皆がちゃんと座ったなと思って拍手の音が聞こえたらお話を始めます。では、よいしょ。見えたかな。(拍手) 見

えたかな。こんにちは。お母さんの後ろに誰かちょっと見える。誰かな。誰かな。あら、皆は、皆はお母さんの抱っこだね。誰かな。もじもじもじ、もじもじもじ、恥ずかしがり屋のあこちゃんでした。こんにちは、あこちゃん。かわいいね、お顔見せてるね。あこちゃんの後ろに隠れているの誰。見える。（「猫」の声あり）猫。ニャーン、ニャーン。猫かな。誰かな、誰かな。じゃあ、ちょっと一緒に見てみようね。猫ちゃん、猫ちゃん、出てくるかな。猫ちゃん。大当たり。拍手。（拍手）拍手、拍手、大当たり、猫ちゃん。当たり、当たり。恥ずかしがり屋の子猫のみこちゃん。ちょっとみこちゃんにもこんにちはするね。こんにちは、みこちゃん。こんにちは、みこちゃん。ニャーン、ニャーン。大きなかばん。皆のお母さんのかばんはどこかな。どっちが大きいかな。緑の大きなかばん。かばんの後ろに隠れているのは誰。ちょっと見える。（「見えない」の声あり）見えないね。何だろう。（「ワンワン」の声あり）ワンワンかな。ワンワン。何だろう、何だろう。皆で見てみよう。ワンワン、ワンワン、ワンワン、大当たり、小犬のくろ君でした。じゃあ、皆で小犬のくろ君、「こんにちは」ってちょっと一緒に言ってみるよ。いくよ。「こんにちは」だよ。一、二の三で「こんにちは」いきましょう。一、二の三、こんにちは。（「こんにちは」の声あり）ワンワン、ワンワン、ワンワンワンワン。皆がこんにちはしてくれたから、くろ君喜んで行ったね。皆が待っているのは、隠れているのはさっきの雲さん、見て見て。雲さんの中に隠れているのは誰かな。誰かな、誰かな。ぽかぽか、にこにこ、お日様でした。今日は皆おうちに帰る時、ちょっと見上げてみてね。ぽかぽかぽかぽかしてきたら、お日様に「こんにちは」って声かけてみましょう。お日様こんにちはでした。おしまい。（拍手）

じゃあ、今日は、ぷくぷくぷくぷく、ぷくぷくぷく、今日ここでこの建物に入る前に見た。この車来てたの知っている人。（「はい」の声あり）あ、知ってる。ねえ。今日はね、この車がやってきているよ。ねえ、お話終わって、この皆の講座を出てから、お母さんとちょっと見てください。時間ありますよね、これ見る。乗ったりできるんですか。見るかな。よいしょ。さあ、では、今度はごみ収集車のお話をするよ。ではでは、またまた紙芝居のお話。全部絵が見えたら拍手をして教えてください。ああ、皆、絵が見えたなと思ってお話を始めるよ。では、いきます。1枚目。（拍手）「ごみしゅうしゅうしゃのシュシュ」。朝早く音楽を鳴らしてごみ収集車のシュシュがやってきます。シュシュの仕事は皆の家から出るごみを片づけること。初めての仕事、どきどきするな。どきどきするな。なに、シュシュは立派なごみ収集車だからすぐ一人前になれるよ。さあ、どんなごみが待っているかな。うわー、すごいごみの山。僕の背よりも大きいぞ。シュシュはびっくりして言いました。こんなにたくさん入るかな、清掃員のおじさんも心配そう

です。皆も出しに行ったことある。お母さんと一緒にごみ出しに行ったことあるかな。よおし、頑張るぞ。おじさんがぼんぼん投げ込むごみ袋をシュシュはどンドン詰め込んでいきます。シュシュ、大丈夫かい。大丈夫。押し板でごみをぺちゃんこにして詰め込むからいっぱい入るんだ。ほら、どんなもんだい。あんなにたくさんあったごみが全部片づきました。ごみ置き場がきれいになって気持ちいいね。すごいね。さあ、次のごみは何かな。おお、ここは木の枝がいっぱい。ねえ、木の枝も出るよね、おうちの周りお掃除しているとね。こういう固いもの入れても大丈夫かな。このくらいなら大丈夫。僕、頑張るよ。ばきばきばきばき、ぼきぼきぼきぼき、シュシュは力を振り絞って固いごみを押し込んでいきます。ばきばき、ぼきぼき。うーん、よいしょ。シュシュ、そんなに入れて平気かい。無理しないでね。はあ、やっと片づいた。ちょっと固かったけど、ごみが片づいてスッキリしたね。ああ、本当だね。さあ、そろそろごみ処理場に行こう。ごみ処理場だ。ブーブーブーブー。逗子市にもあるね、ごみ処理場。ごみ処理場の入り口はシュシュの仲間たちがずらりと並んでいました。早く、早く、シュシュはもじもじ。無理にごみを詰め込み過ぎておなかが痛くなってきたのです。シュシュ、もうちょっと。頑張る。どさー、どさー、ごみ処理場に入った車は順番に荷台のごみをごみのプールに落としていきます。集めたごみは大きなクレーンで詰め込んでどンドン燃やしていくのです。ようやくシュシュの番になりました。どーん。ああ、そんなにいっぱい入っていたの、シュシュってすごいな。そばにいたダンプカーもびっくり。シュシュはすっかりおなかのごみを出してスッキリいい気持ち。シュシュ、今日は一日御苦労さま。車庫に戻ったシュシュはおじさんに褒めてもらいました。さあ、最後にもう一仕事終わらせないと。ええ、何、まだ仕事があるの。最後の仕事は、それっ、勢いよくホースから水が飛び出しました。最後の仕事は今日一日頑張るって町をきれいにしてくれたシュシュのお掃除だ。ブラシでごしごし。タイヤもガラスもびっかぴか。ああ、きれいにするって気持ちがいいね。「ごみしゅうしゅうしゃのシュシュ」でした。おしまい。（拍手）

もう一つお話読むね。今度はね、皆のお友達、男の子が出てくるよ。名前をてっちゃんといいます。てっちゃんっていうんだって。この中にてっちゃんいる。あれ、てっちゃんはいるか。じゃあ、いくよ。全部絵が見えたら拍手をして教えてください。ああ、皆、絵が見えたなと思ってお話を始めるよ。では、いきます。よいしょ。あら、何か見えるけど、何か。全部見えた。絵が見えたら拍手して教えてね。（拍手）お話始めるよ。「ほんとうにほんとうにごみかな」。その日、てっちゃんはおもちゃ箱のものをみんな出して遊びました。てっちゃん、そろそろお片づけしてちょうだい。はい。でも、おもちゃはなかなか片づきません。ああ、嫌になっちゃっ

たな。そうだ、捨てちゃおっと。新しいもの買ってもらえばいいもんね。ぼいぼいのぼい。ブロックだって、お絵かきだって、捨てちゃえ。捨てるの簡単だ。てっちゃんはごみ袋におもちゃをぼいぼいほうり込みました。燃えないごみを集める日、てっちゃんはごみ袋を捨てにいきました。よいしょ、よいしょ、重たいな。ごみ集めの場所は皆が捨てたごみでいっぱいでした。皆はお母さんと一緒にごみ捨て一緒に行ったことあるかな。ダダーツ、ゴゴーツ、ごみ集めの自動車がごみをどんどん集めていきます。プシュー、プシュー、プシュー、力強い力で押し込みます。てっちゃんの部屋はすっきりしていました。でも、てっちゃんの捨てた袋はごみ集めの自動車に乗ってどこへ行くんでしょ。どこ行っちゃったんだろうね。着きました。埋立地です。ごみを埋めるところです。よく埋まるところにほうり出そう。ごみ集めの自動車は埋立地の中に入っていき、ごみを勢いよく落としました。あたたたたた、痛いよう。えーん。泣くなよ。大変なんだぞ、僕たち埋められちゃうって、ごみ自動車が言ってたぞ。私まだ元気よ。ごみたちがお話ししています。何とかここから出る方法はないかな、おもちゃたちは考えました。いいことを思いつきました。思いっきり縮まって、気持ちをそろえて、一、二の三。おもちゃたちは勢いよく飛び上がりました。袋を突き破って次々に飛び出していきます。ぼいぼい捨てるやつをやっつけろ。てっちゃんをごみにしてしまえ。怒ったおもちゃがどんどん進んでいきます。違うおもちゃも追いかけてながらわめいています。誰だっけ、これ。てっちゃん。何だかてっちゃん、ちょっとしょんぼりしているね。このごろてっちゃんはしょんぼりしています。お絵かきしたいな、でも、お絵かきノートもクレヨンもないもんな。全部捨てちゃった。まだ書けるところあったのに。てっちゃんのところにおもちゃたちがやってきました。簡単に捨てられた僕らの気持ち考えて。僕、今悪かったなって思っていたんだ、てっちゃんは言いました。だまされるもんか。埋立地に使えるものがいっぱい捨てられてたぞ。工夫すれば使えるのにね。工夫してごみを出さなければいいのにね。ちえっ。てっちゃんは考えています。ごみにしない工夫です。そうか、わかったぞ。捨てないで、欲しい人にあげたらいいんだ。そうだ、この三輪車、ペンキ塗り直してこうちゃんにあげようっと。ロボットは直したらまだまだ遊べるね。これから丁寧に使おうっと。すごいぞ、てっちゃん、ごみが出ないで知恵が出てきた。僕たちも捨てないで。からっぽになったって缶はごみじゃないよ。瓶もだよ。紙もさ、新聞紙、広告の紙、牛乳パック、てっちゃんのお絵かきノートも紙ですよ。ペットボトルも捨てちゃだめ、僕たちは生まれ変われるごみなんだ。ぼいぼいって捨てないで、集めてくれたら変身します。ジャジャーン。生まれ変わったよ。缶も瓶もぴっかぴかです。見て見て。ペットボトル、新聞紙と牛乳パックはトイレットペーパーになったんだ。皆、

素敵に変身だよ。でもね、まぜこぜに捨てられちゃったら僕らごみになっちゃうんだ。分けるぐらい簡単だよ、僕やるよ。てっちゃんは言いました。瓶、瓶、瓶集め、缶、缶、缶集め。古新聞、段ボール、牛乳パックも集めよう。てっちゃん、忙しそうね。お母さんが言いました。僕、ごみと約束したんだ。捨てる前に考えるって。生まれ変われるごみは捨てないって。僕、分け分けごみ捨てしてるんだ。何だかごみもうれしそうだね。さあ、皆はどうかな。分け分けごみ捨て、ごみ捨てしていますか。本当に、本当にごみかな。おしまい。（拍手）

では、これでおひさま紙芝居やさんのお話はおしまいです。（拍手）私のバトンは、それでは皆さん、うーん、何だかとっても楽しそうなちびっこ広場。では、皆さん、ちびっこ手を上げる。一緒に行こう。バトンをちびっこ広場に渡します。皆と一緒にこっちに行こう。では、バトンを渡します。よろしくお願ひします。（拍手）ありがとうございました。

【ちびっこ広場担当市民】 こんにちは。育連協と葉っぱのひろばです。どちらも幼稚園に入る前の皆さんみたいな小さいお子さんのために活動しています。今日は新聞と風船のプールを用意しましたので、お父さん、お母さんがお話ししている間、こちらでたくさん遊んでください。それから、大人の人も含めてこちらに…用意していますので、プラスチック容器包装として捨てられるものと捨てられないものと、大人の方々もこれにチャレンジしてみてください。

それでは、トンネルを通過して遊びの国に行ってみたいと思います。皆さんもよろしかったらどうぞ渡ってください。

（ちびっこイベント開催）

【平井市長】 さあ、そろそろ大人たちはこちらへどうぞ。バトンをください。

はい、ここにバトンがきました。はい、皆さん、子供たちはそっちで楽しく遊んでください。

はい、子供たちが楽しそうに遊んでいる間に、皆さんこっちでお話ししましょう。集まってください。大人は遊んでないでね。大人は遊んでないでね。

はい、では、少しだけ、今、紙芝居を見ていただいて、子供たちが遊んでいる間に皆さんとごみのトークを、お話をしたいと思います。最初に何か話してくれるのでしょうか。若林さん。

（「若林さんはスペシャルなので、私から。」の声あり）では、今日のごみのスペシャリストが、どうすればごみの出ない暮らしをできるかについてお話をさせていただきますので、最初、じゃあ、村上さん、はい、お願いいたします。

【村上】 こんにちは。池子に住んでいます村上朝鼓と申します。知った顔がいっぱいなので、かえって恥ずかしいんですけれども、ちょっと私の生活を紹介したいなと思っています。

私は横須賀に生まれたんですけれども、自然の中ですごく遊んでいて、子供のころから自然を大切にしたいな、守りたいな、でも大人になんないといけないなというのがあって育ってきました。今、葉っぱのひろばという、今その遊び場で遊んでいるメンバーと一緒に活動をしているんですけれども、そのメンバーの子どもたちと大人と一緒に自然の中で過ごして、自然を残したいなと思ってくれるような、残しておきたいなと思って活動しています。また、今日、ごみの減量化が出ていますけれども、逗子のゼロ・ウェイストの会でも活動したりとか、地球温暖化防止推進委員という、神奈川県活動もしております。私は子供たちに物の大切さというものを伝えたいなと何か思って生活をしているので、皆さんがほとんどやっているだろうということなので、すごく恥ずかしいんですけれども、少し御紹介したいと思います。

随分前になりますけれども、広報の表紙になったことがあって、私のエコ生活を市で御紹介していただいて、広報ずしに載せていただいたことがあります。子供は何でも遊びにするので、私はなるべく子供にいろんなことをさせたいなと思っています。その時も小学校1年生になったかならないかの時なんですけれども、その時に大きな裁ちばさみで切らせているものです。子どもにカッターとかそういうものというのは触らせないとは思うんですけれども、何でも経験ですし、そんなに子供というのは大変なけがというのほしないので、裁ちばさみで自分の洋服とか衣類を切らせて、ああいうふうにストックしていますという御紹介をしています。

これはあれですね、いわゆるボックスティッシュを分解しているところです。これも広報に載った写真です。こちら、お姉ちゃんの机なんですけれども、机のところに自分のミックスペーパー袋というのを下げていまして、これなんですけれども、学校のプリント類とかテスト、要らなくなったプリントなんかをこういうふうに使っています。ごみの出ない生活といったところで、生協、生活クラブというものをやっています。卵の紙パック、マグカップで渡してこういうトレイに載せたりとか、何回も使える牛乳瓶なんですけれども、牛乳瓶とかお酢の瓶とか、結局紙袋に再生されたりとかするようなものを生活の中で、進んで使うようにしています。あと、ペットボトルですとか缶の飲み物、そういうものは家に持ち込まないように、なるべく繰り返して、使うようにしています。外でも紙コップとか、コップを持って行って、1リットルのジュースを買ったりして車の中でやったりするとごみが出ないので、皆には嫌がられるんですけれども、なるべく紙パックのジュースを持っていくように使っています。家の中でいろいろなものを工夫しながら、遊び感覚で再利用していけたらなと思います。

うちに遊びに来た友人が、台所に立った時に、台所の壁カーテンを不思議そうに見ていました。

壁カーテンって窓のところにあります。こういうふうには掛っているんですけども、これは、この白い部分は腹帯を使って作っているんですね。腹帯はいろんなところで実は活躍している、子供のゼッケンだったりとか、幼稚園のバザーでやっている時の花になったりとかいろんなところで。あとこの下のヨーヨーのところは子供の小さい時の洋服を縮めて作っているのもある。ほかの生地ももちろん入っていますけれども、作っています。子供の洋服ってなかなか思い入れがあって私も捨てられないんですね。何かかわいくてかわいくて、とっておきたいので、なるべく身近なところで使っていきたいと思ってやっています。

あとこれは先ほど出ました上の生地ですよ。今これ製作中なんですけれども、子供が切った布をこういう製品にするものが売っていて、これを三つ編みにずっとこれやっているんですけども、よくありますよね、アメリカのおうちとかで。くるくるくるくる巻いてあって、それをつなぎとめてマットにしたり。あれを今製作途中です。これを作るのも子供がテレビを見ている時とかに、チョコチョコチョコチョコ切っているような感じでやっております。子供と一緒に、子供に伝えるというこのぬいぐるみなんですけれども、これは一番上の子が…一番上って、1人しかいませんけれども、上の子が赤ちゃんの時にスパッツをはいていた、スパッツです。すごくいろいろな場面で活躍したので、どうしても捨てられなくて、こういうふうに、全然…これがお姉ちゃんが自分で作ったんですけれども、これを作っている時に、こんなにかわかったんだよ、というふうなことを話しています。これはとても大切にしているものなんです。子供と一緒に生活する中で、物を大切にすることを育てていきたいなと思っています。以上です。

スペシャルな生ごみの話は、これから若林さんに回しますので、バトンタッチをしたいと思います。（拍手）

【若林】 こんにちは。桜山から来ました若林です。特別スペシャルなわけではなくて。私は家で自分の家庭の生ごみを土に埋めるということを細々とやっていますので、それについてちょっとお話ししたいと思います。

子供に手がかかるから大変なことやりたくないのよと思っている皆さん、私もそう思います。なので、数日で簡単にでき、効果的なものはないかな、探し求めています。そんなことで、気楽に皆さん、話を聞いていただきたいと思います。

私のように、特に高い志があるわけではない人でもできるというふうに思って、聞いていただくと幸いです。私がやってみたものを紹介します。最初は、皆さん御存じの方も多と思います。EM菌を使った方法で、ちょっとこれは手がかかるので、その後、簡単にできるラクトヒロ

ックスというものを使ったものがあった、その後で、これまた簡単な布袋を使った方法です。そして今回は直接畑に投入という方法を試しています。それは、その時々負担できる範囲で混ぜています。最初にやったきっかけは、最初の子供がだんだん手が離れてきて、私も余裕が出てきたので、実家のほうでやっていたEM菌を使った方法を始めました。これは専用の容器に、細かく切ったものを入れてEM菌が入った、ぬかみみたいな粉があるんですけど、これを混ぜて土に入れていきます。それをどンドンためて、いっぱいになったらしばらくそのまま発酵させて、それを最後にあけて発泡スチロールに入れる。最終的には、堆肥にするという方法です。主人に話したところ、もしかしたらこれ肥料として使って、増えていった分を外に出して畑に使っているのでどンドン薄くなっちゃって、定期的に足していかなきゃいけなかったのかもねみたいなことを言っていたんですけれども。その時に、実家の母がやっていた方法なんですけど、それは母が寒い時にやっていたもので、触ってみたら、土が暖かくていい感じだった。いい感じで分解されているなということを思いました。そのやり方というのは、材料を全部入れて、そこに生ごみを入れていくだけで、ある程度たまったらそのまま、またしばらく分解させて土に埋めて完成させるという、そういうものでした。ただ、やってみたら、ちょっと水分の調整が手間なんです。子供がだんだん大きくなって今度学校に入ってきますと、学校での役員とか、本来地域の役員なんかも順番回ってきてちょっと忙しくなったりとか、あとは自分の仕事の時間を増やしたりとかで、どンドン自分にかかる時間がなくなるんです。それで、この方法ももうちょっと工夫すればよかったんですけども、面倒くさくなって、そのまま、工夫することなく終わりました。

その時に図書館の特設コーナーの本をたまたま見つけました。「生ごみ先生の元気野菜革命」です。ここに書いてあるこの本なんですけれども、この本で紹介しているのは、畑とかプランターを使って直接もうそこにごみを、生ごみを入れてしまうという、実に大胆な方法を紹介していました。これは本当に、さっきのも簡単だったんですけども、これもとても簡単で、土の上に生ごみを入れて、ぬかみみたいな、さっきのボカシみみたいなものをかけて、生ごみの上にそれをかけて、その下の土と一緒に混ぜちゃう。その上に乾燥しないようにシートなどで覆っておくという、それだけです。現在もこの方法をとっています。この本を読むと、生ごみの栄養が土に、土に返って、土自体がバランスが戻って、その土で作った野菜はすごくいいものが、簡単にできました。

この本を読むとちょっと野菜の食べ方が変わるかな。野菜の結構捨てている皮やらが、大根なんか結構、へたみみたいなところある、葉っぱが生えている、ああいう成長が著しいところが一

番栄養があって、実はこの体に取り入れたり、そういうところをごみにしちゃっているんだよと
いって、なかなか食べるの難しいと思って、そういうところをせめて土に入れて栄養を回して、
それで野菜を作って食べられたらいいのかなと思います。この本を読むと、私もやってみたいな
と思うんですけど、ぜひ、小さいお子さんがいるお母さんに読んでもらいたいかなと思います。

今日は私の小さい小さい取り組みを紹介させていただきました。何で私のこういう取り組みが
続いているのかなあと考えると、実家の母の影響があったのかなと思います。実家の母はいつも
上手にできていたとは思えないんですけども、やっぱりいろいろな方法で生ごみを土に返すこ
とを続けていました。私たちの小さい頃に、コンポストの中にこの生ごみ入れてきてと言われる
と、開けた時にふわっとすごい数のハエが出てきて、顔に当たったりしてという、もう本当に鳥
肌が立ったような、そんな記憶ばかりが思い出されるんですけども、不思議なことにその道
を自分も歩んでいますね。そういうことを考えると、私たちが何を大事に思って何をやっている
のかというのは、次の子供たちがどんどんやはり受け継いでいくんだなということを、この発表
をまとめるに当たって、何となくそういうことなんだなというふうに思いましたので、皆さんも
これから興味を持って続けていっていただきたいかなと思います。

これで私の発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。（拍手）

【平井市長】 お2人の発表、ありがとうございました。いかがでした。

畑というのはどこの畑。家で。

【市民（会場）】 家の庭です。

【平井市長】 家の庭に畑を造っているわけですね。

【市民（会場）】 はい。小さいですが。

【平井市長】 生ごみを何か自分で家でやっているという方、ほかにいらっしゃいますか。村上
さんは。キューロどうですか。そのほか、手が挙げられますか。

【平井市長】 はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

【村上】 済みません、先ほど御紹介しそびれたんですけども、段ボールコンポストというの
をお正月からやり始めて、家の中に置くんですね。段ボール、それこそ持ってこようかなと思っ
たんですけど、やっぱり気温が低くて発酵がし切れないのでやめたんですけど、ピートモスとい
うのと、あと炭ですね、木炭を1袋ずつ段ボールの中に入れて、ごみを入れてかきまぜるとい
うものなんです。これから暖かくなって40度ぐらいになると発酵、分解が進むらしいんですけど、
ちょっと寒過ぎて分解がまだなんですけど、家の中では結構、冬の間は分解は遅いんですけど、

外に出なくていい分、楽です。ちょっと今気に入っています。

【平井市長】 ちなみに私、キエーロ使っております、我が家の生ごみ担当になっております。はい。大体週に2回ぐらい、ステンレス性の容器、ね、用意した後、生ごみ投入してあって、大体いっぱいになると家の裏手に、これはベランダ用なんですけれどね。うちが使っているのは外置きの平べったい、その箱の中に土だけ入れて、こういうふたというんですか、を上にかぶせて、ただ土の中に入れてはいるものです。さっき腐ったものは入れないと言ってたけど、腐っても入れています。平気なんです。結構面倒くさいから、そんなに頻繁には入れにいかないんです。4日ぐらいたつと下のほうが何となくもうやばい感じなんです。でも、気にせずに穴掘って、ばさばさばさっと入れて、土かぶせて、多少砕いて、そのままほうっておく。夏だと4日ぐらいで結構きれいに消えるという。冬はさすがに寒いので1週間で結構…ちょっと厳しいかな。2週間ぐらいかかるんですね。でも、お構いなしにがんがん入れています。5人家族なんで結構生ごみ出るんですね。でも、カレーなんか余って捨てるのも嫌じゃないですか、流しに。そういうのもお構いなしで投入しちゃうんです、土の中に。それでかぶせて。そうすると、かぶせるので臭いがしないんです。これの要はですね、空気の通り抜けるスペースがわざと作ってあって、表面をいつも乾燥させるんです。そうすると、下にあるのはもちろんぐちゅぐちゅでも、外には臭いが出ていかない。だから、これがね、この葉山の松本さんが考案したんですけど、この角度で空気が常に流れることで、どうやら臭いもせせずに分解が進んでいく、そういうことらしいんですね。だから、これベランダ用だからちょっと高いんですけど、ベランダ用じゃないやつは1万2,000円くらい…1万2,000円で、3分の2が補助金出ますから4,000円で置けるんですね。それで生ごみはほぼ燃やすごみに出さなくて済む。

じゃあですね、ちょっと。

【市民（会場）】 うちがEM菌コンポスト最初やって、その後コンポストの内部にハエがばあっと、ウジがうのようによつと。これじゃだめだと思って、そこを見ないようにするために、キエーロにしようと考えています。

【平井市長】 ああ、すばらしい。うちもそれあったんですよ。でっかいやつね。やっぱり同じようにね、ふたあけるの嫌でね。ふたあけるのうちの奥さん嫌だから、あなたやってって言って、それ以来もう生ごみ担当なわけ。でも、さすがにこれはちょっとこうと思ったらキエーロ出てきたから、もうこれ。最初はでもね、抵抗があったんです。僕は一応市長だから、ね、やらなきゃということで、やるぞって言ったら、いや、においとかな何とかね、絶対くさいからやめてよと言

われるわけです。でも、やってみなきゃわかんないからと言って、やったら、臭いもなくて全然全然抵抗なくできてますから、ぜひぜひ物は試しでね、試してください。

さあ、男性に。何かちょっと、家では。

【市民（会場）】 家では何もやってないんですけど、自分が無知なのかもしれないんですけど、助成金とか出るんだったら、そういうことも考えてもいいかなあと思いました。もっといろんな地域で周知をして、減量化に取り組んでいくべきだと感じました。

【平井市長】 今日の企画、なかなか凝っててね、すばらしいけど、ちょっと参加する人が少なくてね、本当は出張企画でもいいね。小坪とか沼間に、親子遊びもあって、去年作ったんですよ。そこで小さい子もね、連れてくる。それも親と一緒に参加できるし、そういうところでね、助成金の説明なんかもやるといいね。

【資源循環課 平元】 やります。

【平井市長】 ああ。さあ、いかがでしょうか。ずっと聞いてください。

【市民（会場）】 ちょっと済みません、子供を見ながら半々でお話を伺っているんですけども、私も生ごみ処理機は今、そちらで助成金をいただいて、購入して、壊れてしまったんです、それが。次を買うのに、やっぱり安いものではないので、どうしたものかなと思っていて。割と面倒くさがりなので、ただ、ごみを投入というのは自分でもできそうな気がするので、ぜひ検討してみたいなと思います。

【平井市長】 ありがとうございます。いかがでしょうか、御家庭でどんなごみを処理されていますか。

【市民（会場）】 初めから聞いたかったんですが、所用がありましてありまして。私は逗子市からおとし横須賀市に移りまして、もう逗子に将来的に戻ってくる予定なんですけど、コンポストをどこに置くのか問題です。コンポストがちょっと大家さんに反対されてしまって、やっぱり草木のごみを燃やしてしまうことが結構多いんですね。すごく今、放射能の問題とか、草木を燃やすと放射能がすごく凝縮してしまって、確かに灰にすればかさは減るんですけど、草木は置いとけば減るので、燃やさないようにしていけたらなって、逗子市のごみ全体量に対する草木ごみの割合というのは、どれくらいなんですか。

【平井市長】 答えられる？

【石井資源循環課長】 燃やすごみですね、2割ということで推計されています。つまり、年間1万3,000トン近く…1万3,000トンぐらいですね。

【平井市長】 ですから、植木のチップ化とか、2年ぐらい前から始めて、まだ全部じゃないんですけどね。それチップにしたのを公園とかに撒いているんですけど、それすごく評判いいんです。ハイランドの公園にダーッと撒いたりね。そしたらすごくふわふわで、匂いもよくて、ほかの公園でも撒いてくれて結構大人気です。ハイランドの自治会館のその横の公園にも撒いています。ちゃんと放射能も検査していますから、問題ないですし、チップにして、ハイキングコースに撒いたりしています。

ママ友の間でごみの話とかしますか。

【市民（会場）】 ごみの話はあまりよくはしたことはないですけども、

【市民（会場）】 もう生ごみ処理機…やっぱりおもしろいんですよね、これやるというところが。本当にバクテリアが生ごみを分解して、土にかえる。

そういうことで楽しみながらできる。今の生ごみ処理なんて、うちが飼っているバクテリアにえさをあげている（笑）そういう、そういう考え方で。ごみってとらえたらポジティブな感じで楽しみにやっていくことを心掛けながらやりたいですね。

【平井市長】 逗子の取り組みといいますとね、2月の広報でももうご覧になりましたか。

（「まだ来てません」の声あり）あれ、まだ来てない。あ、昨日ぐらいから、ね、全戸に配られますけど、最終処分場はね、あともうわずかししか入らない。これはもう燃やすごみを徹底的に減らして、要するに灰をね、少なくしないと、今は逗子の中で処分場があるので全部自区内処理できていますけど、これをもう今拡張工事しているんですけど、それでも恐らくそう長くは持たない。こうなってくると、途端にもう燃やした後の灰を市外で処理する、お金払って処理しなきゃいけなくなっていくという状況まできている。だからもうとにかく、今この生ごみを徹底的に分けて燃やすごみに出さない、これをもうキャンペーン張らないと、直接もう費用がどんどんどんかささんじゃう、そういう状況に今あるんで、それでこの企画もその一環なんで、これからもうがんがんやっていく。加えて、実はその焼却炉、今燃やしていますけど、もう30年近くたっているんで老朽化して、大規模改修しないともうもたないと。それには30億円かかる。改修するだけでね。これもまた24年、25年、2年かけて工事するんですけど、工事している期間は炉が使えないから、そうすると横浜と鎌倉に頼んでお金払って燃やしてもらおうんです。今、予算を一生懸命作っているんだけど、もう目の玉が飛び出ちゃうくらい。その横浜と鎌倉にごみをね、燃やしてもらうために幾らかかると思います。わかんないですよ。2億円以上かかるんですよ。ごみを積みかえる造ったり、要するにパッカー車、外に展示してます2トンのね、パッカー車から、

10トンのダンプに積み替えて横浜のところへ持って行くわけです。その詰め替える作業とか、積みかえる作業、ストックヤードと、ごみを焼却して灰を処分してもらうのに、1トン当たり、幾らでしたかね、何万円もかかるんです。というのがあって、とにかくもうこの2月、3月は徹底してごみの減量・リサイクルの大々キャンペーンを張らなきゃいかんと、そういうことになっているんです。だから、ぜひぜひ皆さん、ママ友にね、今日、見聞きしたことを、これいいよって。何しろ生ごみは燃やすごみの4割と言われている。皆さんのお宅から出すごみの。そうすると、生ごみを分けられれば4割、植木のごみを燃やさなければ、さらに1～2割は燃やさないで済む。そうするともう半減できるんです。お金が半分になる。そんなような状況があるので、徹底してやりたいというふうに、とにかく覚悟をしています。

さあ、私が大体しゃべったので、どうでしょう、何か疑問でも質問でも、ないですか。

【市民（会場）】 皆さんこんにちは。

先ほどね、ちょっと発表の中に、EM菌は時間がかかるのでそれ以外のものに替えたというお話があったんですが、私はもう20年来EM菌でやっているんですね。

結局、キエーロが消す生ごみというのは資源であって、キエーロという、消してしまうという発想が私には納得いかないんです（笑）生ごみが堆肥にね、循環させてまたというのがね。そういうので、私はキエーロじゃなくてEM菌を選んできました。EM菌を加えることによって堆肥として使う時にはすごく栄養価も高くなります。私は生ごみだけで、生ごみを燃やすのが嫌でね、畑を…うちの生ごみを使って、野菜を作っています。生ごみ以外は一切堆肥に使わなくても、とってもおいしい野菜ができるし、特に葉っぱものがすごく、おいしい。だから、とにかく、EM菌は時間がかかってというだけで、違う手法にするというのは、私の中ではあり得ない。

【平井市長】 ありがとうございます。堆肥としてね、循環したら最高ですね。確かにEM菌の堆肥はものすごく野菜にいいんですね。花の厚みが違う。だからそれができたら本当に最高なんで、そういう試行錯誤をね、していかなきゃなって。いろいろと市民の皆さんと考えて取り組みを進めようと、そんな感じになっています。

さあ、ほかに、今日生ごみのこと多かったですけど、ほかのごみもいろいろあって、さあ、困ったことなんてあると思うんですけど、そんなことをぜひぜひ質問していただければ、答えられる範囲で答えますけども、いかがでしょうか。リサイクルできない紙とかりサイクルできる紙とかで、あれ詳しく説明できる人、誰。実は意外に私も知らないんです。あれ、もってくるとよかったですね。

【資源循環課 平元】 皆さん、家庭に「キューズ」がある。これをちょっと見ていただければと思うんですけど、「キューズ」の、御家庭にですね、全世帯に配らせていただいている「ごみの出し方、分け方」の冊子がありまして、これの、紙・布類はですね、資源物、資源回収ということで、結構町内会とかですね、そういった単位で資源回収したりしておりますけれども…（以下聞き取り不可）

団体としての活動がないエリアで資源回収しているというような形ですので、このページにですね、出せる…資源ごみとして出せるもの出せないもの、あと紙の資源ごみの分け方ですね、というのが詳しく載っていますので、こちらもお覧になっていただければと思うんですが、新聞とかですね、雑誌とか牛乳パックとか、そういったものは皆さん大体…あと段ボール、そういったのは大体それぞれ分けて出すんだということがよくお分かりだと思うんですが、それ以外のもの、雑多な紙類ですね、いわゆるミックスペーパーというふうに呼んでいますけど、そういったものが出せるもの出せないものというのはちょっと、ある程度、一応ちょっと分かりにくいところなんですけど、こちらがリサイクルできる紙ということで、これが、こちらに貼ってあるものですね、こういったものはミックスペーパー、その他の雑多な紙としてですね、出すことができます。こういった箱とかですね、ちょっと今の…最後にですね、あとで実際に皆さんにもお手伝いいただいて分けていただくためにですね、そこの新聞紙のプールの中にですね、こういったミックスペーパーもちょっと入れてありますので、あとで一緒にちょっと見てみて、分別をちょっと体験していただければと思いますが、そういったものはその他の紙類ですね、その他の紙、これはそれはそれでですね、ミックスペーパーとしてまとめてこの紙袋…紙袋もミックスペーパーになりますし、いわゆるコピー用紙だったりとかメモ用紙だったりとか、そういった細かい紙もですね、ミックスペーパーとしてまとめればですね、出すことできるんですね。紙袋とかに入れて出していただければ資源回収として回収して資源化できると。結構そういった紙類がですね、燃やすごみの中はかなり混入しているという状況ありますので、そういったところ、本当細かい紙。先ほど村上さんのお話でお子さんの机の横にミックスペーパーを入れる袋、改めて日々そういった意識で行動していただいているというお話がありましたけど、本当、仕事しながらでも自分そういう細かい紙が出た時に、私も横に封筒を置いていてですね、そこに入れてごみ箱に捨てないようにしています。そういったことが大体出せる。気をつけなきゃいけないのがこの出せないごみですね。これがちょっと、非常に分かりにくい。しかも、見ると紙って裂いちゃっているんですね。こういったものをですね、これは書いてないですか。この紙、紙マークですね。紙マークついて

いるんだけどリサイクルできないという、そういったものがあるのが非常に分かりにくい。こういった洗剤類、石けん類の箱は混ぜていただいたりするんですけど、一緒に、このほかの紙と一緒にこのリサイクル、溶かして再生するという作業をすることにおいがついちゃうんですね。においが…石けんとか洗剤とかのにおいがついでと。あとは、こういうのもですね、牛乳パックとかも、結構紙って、紙マーク、こういう紙マークついちゃったりしているんですけど、中身、真空パックあれするために中にアルミのコーティングをしている。こういったものも紙としては一緒にリサイクル、再生できないでこれもだめなんですね。こういう、こういったヨーグルトのパックとかアイスのパック、カップ麺とか飲料のパックとか、中身の防水の加工しているもの、こういったものもだめ。あと銀紙、銀の、これも同じですけど、銀の加工したものがついているのとか、あとは感熱紙とかカーボン紙、そういったものもちょっと分かりにくいんですけどだめなんですね。あとカーボン紙、こういったものが一緒だとちょっとリサイクルできないといった形になります。

【平井市長】 それ「逗子市では」と書いてあるんだけど、ほかの市ではリサイクルできるケースもあるの。

【市民（会場）】 逗子市ではこれは燃やすごみに出すというようになっているんですが、私たち毎月の…月末の金・土にリサイクル広場というのを設けているんですね。そこでは逗子市の分別よりも細かい分別でごみを集めておりますし、特にここのアルミで張ってあるのも私たちは資源として回収して資源化していますので、家で貯めておいていただいてその場に持ってきてくだされば、今、市長から話があった、何しろごみ減らさなきゃいけないという中でね、今日いらしている方だって、皆、意識の高い方だと思いますけど、そういうところでも気を使っていたいで利用していただけるとごみが減ると思いますので、これだめよというイメージじゃなくて、月末まで持っていて、市役所まで持って来てくださればリサイクル広場では資源化しております。それ以外の紙、プラスチック以外のものでも、もうちょっと細かく資源化できるように分別して回収しておりますので、ぜひ頭に入れていただいて御利用いただければありがたいです。

あります。

【平井市長】 要するに、いろんなものが分けられると利活用できるけど、同じ紙とはいえどもこれがごちゃごちゃなっちゃうとほかの物質が混ざっているんで紙としてのリサイクルはできないということですね。だから、細かくこういう種類ごとに分けて回収して、そういう専門の業者に持って行けばこれでもリサイクル…逗子市はもうこれとにかくまとめて入れちゃうから、これ

を入れられちゃうと受け取る業者はリサイクルできない、そういう理屈なわけですね。これだけでも徹底するのが難しいね。もう大体…あとちょっとなんですけど、今日皆さん結構集まっていた。これをどうやったら5万8,000の市民に徹底できるか、これがね、もう常に悩みの種ですよ。だから、何かいいアイデアがあればね、出してもらいたいんだけど、さあ、何か御意見ありませんかね。はい、はい。

【市民（会場）】 私はすごい不精で、今、知っていながら一緒に出しちゃったりとかするし、紙ごみって何か…紙袋に入れて出すんですか。その紙袋も不足だし。なのでルールをちゃんと書いた紙袋を配るとというのがいいかなと思うんです。銀色はだめよとか書いて。

【平井市長】 そういう分別のやり方を書いた紙袋をもらえれば非常にいいと。ああ、なるほど。それも一つアイデアだね。さあ、ほかに何か、思いついたら何でもいいです。そんなことなんて誰も言いませんから。拠点回収というのを2年ぐらい前から始めて、公民館とかあと逗子アリーナとかそういうところに、市役所とかの横にあるようなボックスが置いてあるのを御存じですか。今、市内何カ所だったっけ。（「6カ所」の声あり）6カ所。6。沼間・小坪公民館と市役所と青少年会館と逗子アリーナとハイランド自治会館。今、6カ所だから、これをもっともっと増やしていきたいです。そうすると、そのボックスの中に箱が置いてあって、いろんな分別品目のね、ケースに、持って来てもらえればより細かい分別をしてそれで回収できると。そこにさっき言った植木のチップとか堆肥にしたものも置いてあるんですよ。そうすると、知っている人はもう、がんがん持っていくわけです。チップとか置いてあるの知っているから。市役所の横に行くとかでっかいケースがあって、そこにその植木のチップとか置いてあるので、だから皆、袋を持ってきて家に持って帰るんですよ。そういう…袋も置いてあるんだっけ。丁寧だね。そういうのをいろんな市内の公共施設を中心に、どんどん増やしていこうというふうにしているんです。そうするとこういうものをもっともっと品目を増やしていけば回収できるし、リサイクル広場というのをね、定期的にやっていただいているんですけど、そういうものも、例えばハイランドの自治会館とかでね、定期的にやってくれるようになると、毎週例えば土曜日とかに、そこに、すぐ家の近くに行ってそういう資源になるようなものを置いていけるし、あるいは、もったいない市みたいな交換市でも、地域の歩いていける範囲でできるようになると、より分別もリサイクルも進むかなど、そんなようなことは考えておりますよね。とにかく、こういうのをどうやったら皆が理解してできるようになるかというのはね、本当に悩ましいですよ。何かいいアイデアありませんか。

【市民（会場）】 その一つの僕たちの活動の一つとして、リサイクル品目という話ありましたけれども、毎月の最終、最後の金曜日・土曜日の日にリサイクル広場ともったいない市というのをやって、もったいない市というのはもう不用…家庭の中で不用になったものを捨てては、そのまま捨てるのももったいないようなものを持ってきていただいて、必要と思う方がどんどん持って帰る、無料で持って帰る、無料で交換していくもの。そうするともうごみになりませんし、皆でうんと使い回していける、そういう活動をしておりますので、毎月最終の金曜日・土曜日、逗子市役所の前でやっていますので、不用品ですとか、そういうどんどん要らなくなったものをお持ち…使えるものですね、使えるものはお持ちいただきたいと思っています。よろしくお願ひします。

【市民（会場）】 今、子供4人いてちょっと手が…忙しくて大変なんで、ごみを毎日、結構ごみ置き場が遠いので持って行くのがかなり大変なんです。だから、家の前とかに、ごみ袋を例えば有料で買って、燃やすものとかプラスチックとかを家の前に出しておいたら、戸別で持っていってくれるとかですね、なるべくちょっとでも少なくしてとかいうふうに、全然お金払わなきゃいけないという詰め込め詰め込めになると思うんですけど、こういう戸別回収とかはしないんですか。

【平井市長】 戸別回収ね。さあ、できるかどうかというのは検討したこともありますけど、なかなかこれは、小さいまちとはいえ、山坂も多く、本当にこれをやろうと思うとかなりハードルは高いですね。ええ。その昔々、30年ぐらい前は戸別回収してたんです。世帯数も少なかったから。いろんな可能性を検討しながらですので、それは家の前に取りにいけるといのは楽は楽ですけどね。できれば、でも少し距離はあるけども持っていけるとい。生ごみさえ分ければ、そんなのべつ幕なしにごみを出さないで済むわけですよ。生ごみは本当置いておいたら臭うからね。2週間置けないじゃないですか。だからそれさえ分けて、例えばね、こういういろんな家庭でいつでもそこに処理できるのであれば、あとはもう乾きものですから、仮に燃やすものだとしても。乾きものは別に1週間置いておいたって腐らないし臭わないから、それだったらもし1週間に1回とか2週間に1回、どこかのそういう拠点に行って投入できればそれで済んじゃうというんだったら、市の負担もなく、皆さんの負担もそんなになく、ごみがうまく減ってリサイクルにも回っていくかなと。とにかく、これ見ただけでも細かく分けなきゃこれはごみが減らないということだよ。でも、細かく分けるためには一括で回収したら限界があるということなんです。だからやっぱりある一定のところはちゃんと、これはここ、これはここって言って、ボックスを

置いて、それで皆がそこに投入していってもらおうという仕組みを作らないと、もう徹底したところまでは到達できませんね。そういう幾つかのあわせ技でとにかく減らしていこうと、そんなようなことを考えているんです。さあ…はい、どうぞ、どうぞ。

【市民（会場）】 これ、非常に分かりやすいと思うんですよ。これと同じものを作ってスーパーとかコンビニに置いておくと。そうすると、買った時にそのほうが、あ、これはこっちのプラスチックなんだ、こっちの紙なんだというふうな、買ったところで見るのが一番いいんじゃないかなと。

【平井市長】 それ、いいアイデアだね。ちょっとそれは検討してみましょう。お店に協力してもらわなきゃいけない。でも、あれでしょう、リサイクルの協力店舗というのがあるでしょう。ね、登録してくれている、ね。その何かリサイクルマークの掲示しているんだよね、お店に。だから、そういうお店なんかに協力してもらったり、できればスーパーだよ。逗子であればスズキヤ、キング、今度マルエツ撤退しちゃうけど。オーケストアが今ね、建て替えの準備していますけども、そういうスーパーにこういうのがあると、確かに皆、あ、これはこっちに捨てられるんだと、これはリサイクルできるんだというふうに分かりますよね。すばらしい。

さあ、ほかにいかがでしょう。

【市民（会場）】 毎年秋口に剪定枝が結構出て、結構燃やすごみで出しちゃってたんですけど、チップにする機械を貸し出してくださるようですが、うち車がなくてお返しに行くとかできなくて、できれば町内ごとにその季節になったら来ていただいて、そういう、皆で剪定枝をチップにする日を設けていただけたらその日までとっといっしょに作業できるんですけど、そういう活動できないでしょうか。

【資源循環課 平元】 ありがとうございます。ちょうど今ですね、宣伝しようと思っていたんですけども、去年から剪定枝の粉碎機、枝木を粉々に砕いてチップにして、そのチップをぬかるみに撒いたりとか、あと、ちょっと厚めに撒いて雑草が生えないようにするための、機械の貸し出し制度を始めています。その機械の貸し出しなんですけれども、市役所の資源循環課、資源循環課に電話していただければもうそれだけで大丈夫です。電話していただいて日時を決めたら私たちがお持ちします、トラックで。トラックで大体毎週金曜日にトラックでお持ちして、金曜日・土・日で粉碎していただいて、翌週の火曜日、またこのトラックで伺って、引き上げに行きますので、1カ月に1回使えるので、例えば今秋口というお話出ましたけれども、またちょっと年末ぐらいに溜まってきたら、また電話していただければ貸し出しもできます。なので、ぜひ御

利用ください。よろしく申し上げます。

【平井市長】 地域でね、何とかの日ってやって皆で集まっていると、あ、こういうことができるんだというのが皆に知れ渡るから、そういうプログラムもいいですよ。家庭でも今言ったように、ね、機械を持って行って、ちゃんと引き上げてくれるという、ちょっと過剰サービスかもしれないですね。ちゃんとそれ人と車があるんですよ、機械も。ですので、今の、例えば、ね、そういう何とか会館みたいところでね、持って来てくれれば一気にまとめて皆でやりましょう。ちょっとうるさいですけど、音がね。それも一つのアイデア。はい。

【市民（会場）】 妹が東京の府中市に住んでいるんですけども、府中市でゴミが有料化になってプラスチックゴミとかを捨てるのも有料なんですね。そうすると何が起きるかという、スーパーでビニール袋に肉を詰め替えるおばさんたちが出るらしいんですね。だから、持って帰るとゴミになるけれども、そこに置いていってしまえばゴミにならないので、ゴミを有料化したら、肉とか魚を買って、詰めるところにビニール袋ありますよね。あのやつに肉とか魚を詰め替えて持って帰ってくるおばさんたちがいるそうなので、やっぱりお金がかかるとすごいんだというのをこの間聞いたので、ちょっと皆さんにお知らせします。

【平井市長】 主婦は強し。ゴミ出さないでトレイをお店に置いていくわけね。ああ。はい。

さあ、ぼちぼち次にバトンタッチ…あ、まだ意見、はい。

【市民（会場）】 今、リサイクルできないゴミという、結構買わないでいいものが多いなど。できるだけ洗顔とか…洗顔料、シャンプーやいろいろなを買わないで1つで自然…なるべく水が汚れないもので一本化してしまうとか。あとは、うちはキューロがないんですが、キューロはすごいすばらしいんですけど、今ちょっと置けないので、もう庭にそのまま米ぬかと一緒に生ゴミどどん埋めて全然していくので、万が一キューロが手に入らない方はそういう方法でやってみてください。

私の実家が鎌倉市なんですけど、鎌倉市2カ所、清掃工場、焼却炉がありまして、今、実家から100メートル以内に今泉清掃工場があるんですけど、ダイオキシンが検出されて今、止まっている状態で、ダイオキシンの検査って年に1回ぐらいしかやってないって、ある環境ジャーナリストの方はおっしゃっていたんですが、それでも検出されるということはすごく深刻で、近い将来に鎌倉市は名越の清掃工場で鎌倉市全てのごみを焼却するようになるそうで、名越というのは小坪トンネルを越えてもうすぐのところにあります。逗子市もやっぱりお金、多額なお金を払えばほかの市にも任せられるというのも一つのこの逃げ道というか、逗子市すごくごみのことを、私ほ

かの市に移ってすごいなと、逗子市はすごかったんだなと気づいたんですが。本当、もっともっと頑張っていて、子供たちの将来のために頑張ってください。横浜市の粗大ごみ焼却場の近くはやっぱりぜんそくの子が多いというデータも出ていまして、すごく心配です。ごみを本当に本気で減らして、ますます頑張ってください。よろしくお願いします。（拍手）

【平井市長】 はい、ありがとうございます。それではそろそろ、次のリサイクルできるできないというのをね、ご覧いただきたいな。皆さんにバトンをお渡しして、あそこの中のを分けて片づけましょうというのが最後のミッションです。どうぞ。（拍手）

【資源循環課 平元】 じゃあ、皆様でまずあちらのほうに移動してください。

じゃあ、最後ですね、最後のバトンやります。最後、今までのお話伺って、実際に分別をして分けてみましょうというのをやります。分けるのは5種類。1つ目が容器包装プラスチック、今、手上げて…ここに集めてください。2つ目がミックスペーパー、新聞紙、今、手を上げている、新聞紙ちょっと大変なんですけど、今、手を上げているところへ集めて持ってきてください。3つ目がミックスペーパー、手上げてください。今、手を上げているところ、持ってきてください。ミックスペーパーはヒントがあそこのホワイトボードにあるので、あれを見ながらミックスペーパーに分けてください。あと段ボール、段ボールは広げてこのあたりに集めましょう。最後、それ以外の、新聞でもなく、ミックスペーパーでもなく、容器包装プラスチックの中にも入らず、段ボールにも入らないもの、この最後が燃やすごみです。こちらのところ、ここに入れてください。じゃあ、どんどんどんどん入れちゃいましょう。やりましょう。

（ 遊び終わったものを分別 ）

【司会（福本課長）】 皆さんありがとうございます。アンカーが無事ゴールインということで、ありがとうございました。最後にですね、御案内ということでちょっと時間最後とって、これ終わった後にですね、今ちょっとそこに並んでいますけれども、こちらの会場でもって、もったいない市ということでもって開催しています。3時近くまでということで予定をしておりますので、皆さんよろしくお願いをしたいと思います。

それとですね、次回のまちづくりトーク、3月10日の土曜日に行います。地域版まちづくりトークのラストということで、逗子小学校区を題材としまして、ふれあい活動、あるいはですね、住民自治といったようなことについて皆さんと意見交換を予定しています。時間など広報で御案内いたしますのでよろしくお願いをいたします。

あと、パッカー車がですね、外に置いてあります。今日はですね、運転席にも座ることができ

るということなので、ちっちゃいお子ちゃまたち喜ぶと思いますので、ぜひお帰りの際に見ていってください。12時半までだそうです。

それとですね、アンケート、こちらのほうに用意してございますので、皆さんぜひ今日の感想も含めてアンケートに御協力をいただきたいなと思います。あとですね、今日この開催に当たりまして御協力いただきました、ひだまりパークさんからぜひちょっと自分たちのことをPRしたいということで、もしよろしければどうぞ。はい。

【市民（会場）】 済みません、ひだまりパークです。今まで年に2回、お母さんたちがお子さんを一時預かりをしてリフレッシュしてできる講座を企画していたんですけれども、今年から年に3回開催することになりまして、2月にチョコレートの焼き菓子とベリーソースを皆さんで作って、いただく会を開催しますので、ぜひ皆さん奮って御参加ください。チラシを今配っていただいていますので、よろしくをお願いします。

【司会（福本課長）】 はい、ありがとうございます。最後です。生ごみのこの電動の、こちらの生ごみ、どんなのかなというのを皆さんお帰りの際にちょっと見ていってもらえればいいのかなと思います。ここにございますので、どうぞごらんください。

はい、じゃあ、以上をもちましてまちづくりトーク終わります。どうもありがとうございました。（拍手）